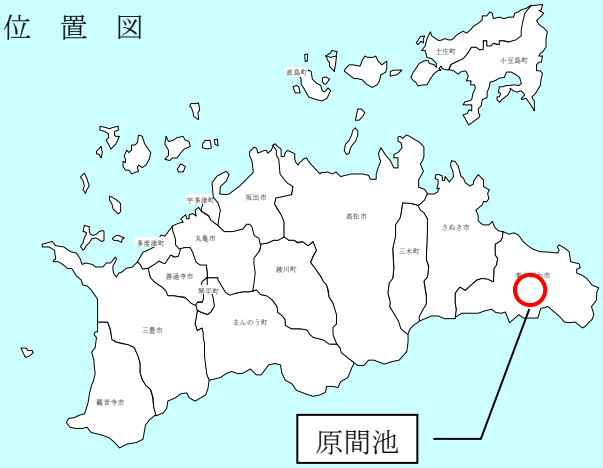
# 原間池（わらまいけ）

位　置　図




諸　元

| | | |
|---|---|---|
| 貯　水　量 | 280 | 千m3 |
| 満 水 面 積 | 8.6 | ha |
| 受 益 面 積 | 45.7 | ha |
| 堤　　高 | 10 | m |
| 堤　　長 | 355 | m |

原間池は、大川郡誌によると「従古のころより存在」とありますが、「中池」「ど池」などと呼ばれる数個の小池が、次第にその規模を大きくしたものといわれています。

現在の姿となったのは、寛永年間（1624～1645 年）と伝えられ、湊川の支流をせき止め、自然の谷間を利用して造られました。貯水は、自然に流れ込む水のほか、湊川上流の井堰から取り込み、ため池の水量を確保してきました。

しかし、湊川の支流が水源で流入量に乏しいため、干ばつの時には干上がってしまうこともあったため、昭和 37 年（1962 年）に、ため池の東側を流れる湊川本流わきにポンプが設置され、湊川からの揚水により水不足は解消されました。

ため池の周辺には古墳群が点在し、弥生式土器などが多く出土しており、古くから勢力を誇った豪族を中心に栄えていたことが伺えます。また、源平屋島合戦のとき、源義経がこの原間池付近を通って、平家の立籠もる屋島へ攻め上がった伝説なども残されています。

堤防にある弁天さまでは、毎年 7 月 17 日に地域を上げての祭りがあり、地元の人々に親しまれています。

原間池

憩いの場として整備された遊歩道